

血管内皮機能検査		S109		
		担当部署		
血管内皮		生理		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→血管内皮機能検査		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		低下：高血圧症、糖尿病、脂質異常症(高 LDL コレステロール血症、高トリグリセライド血症)、高尿酸血症、慢性腎臓病、肥満・メタボリックシンドローム、睡眠時無呼吸症候群、慢性心房細動、心不全、肺高血圧		
検査受付時間		8：45～17：30		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		1) 腕や指についている貴金属類は全て外し、ベット上で 15 分安静後、検査を実施する。 2) 検査前の採血は不可。 3) 検査に 30 分以上を要する。		
検体採取の特別なタイミング		検査前採血不可		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(指)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		ベッド不可		
検体受入不可基準		1) 血圧測定が困難な患者 2) 検査に同意を得られない患者		
保管検体の保存期間		特記事項なし		

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		90 分				
生物学的基準範囲		[PAT ratio] 2.10 以上：良好 1.68～2.09：問題のない状態 1.67 以下：要注意				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		低下：食事・カフェインの摂取、喫煙、加齢 高値：閉経前の女性 ＊月経周期に伴う血中エストロゲン濃度の変動により、血管内皮機能が変化する。 ＊運動、減塩で改善傾向を示す。				
臨床的意義		血管内皮より様々な生理活性物質が産生・分泌されており、特に一酸化窒素の生産は、血管平滑筋の弛緩に影響を及ぼす。心疾患のリスク因子の多くは、内皮機能障害に関連し、適切な評価は重要である。駆血開放前、後の動脈血流量の比を RHI(反応性充血指数)で求め、血管内皮機能を評価する。				